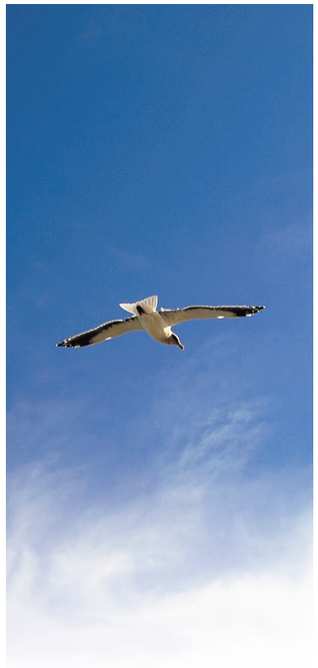
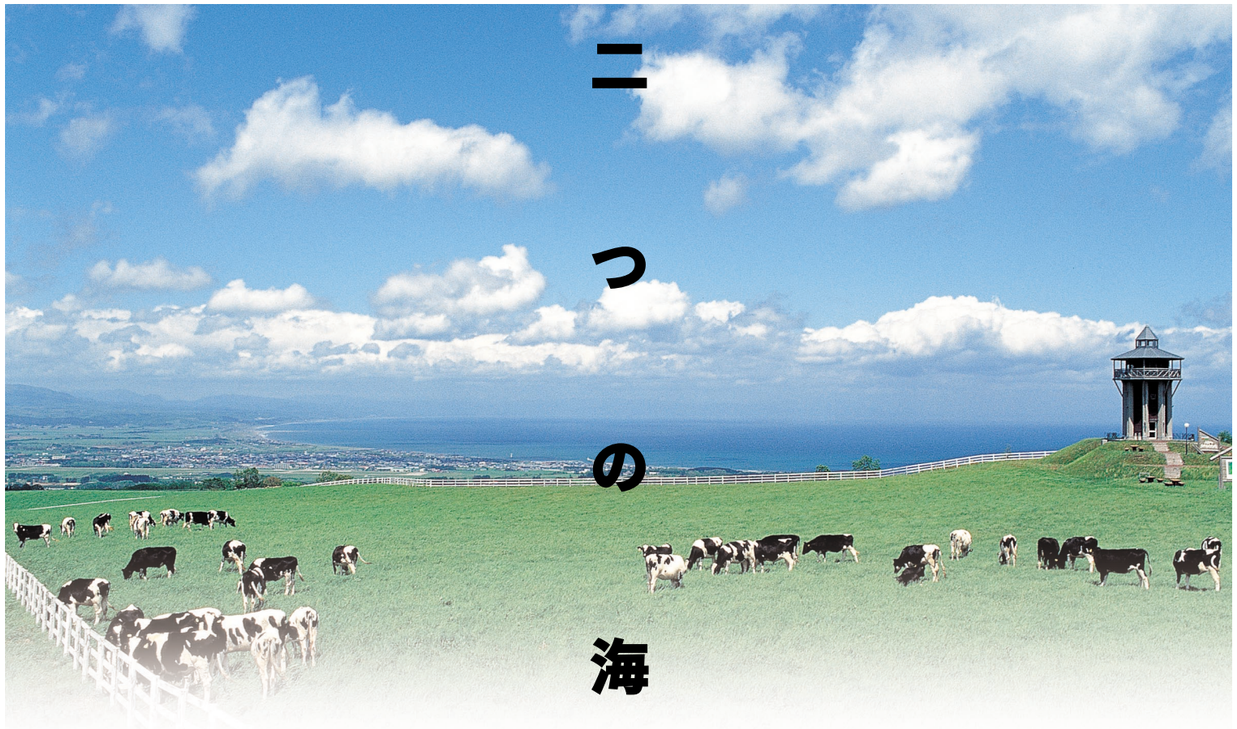


八雲町勢要覧
［平成19年］

……発行……
八雲町
〒049-3192 北海道二海郡八雲町住初町138番地
TEL.0137-62-2111 FAX.0137-62-2120
http://www.town.yakumo.lg.jp/

……制作……
（株）北海道アート社

この要覧の製作費は1冊あたり約400円です



八雲町勢要覧 2007

新生 八雲町図鑑

INDEX

八雲の概要……4

A 八雲の自然……5

A-Ⅰ 太平洋……6
1 内浦湾（噴火湾）

A-Ⅱ 日本海……8
1 日本海

A-Ⅲ 山と川……10
1 八雲の山
2 八雲の川
3 八雲の動植物

A-Ⅳ 景観と公園……12
1 景観
2 公園

A-Ⅴ 噴火湾パノラマパーク……14
1 噴火湾パノラマパーク
2 PFI事業

A-Ⅵ 熊石休養村……16
1 熊石休養村

A-Ⅶ 八雲の温泉……18
1 八雲の温泉

B 八雲の文化……19

B-Ⅰ イベント・交流……20
1 祭と伝統行事
2 イベント
3 地域間交流

B-Ⅱ 文化・スポーツ……22
1 文化
2 スポーツ
3 スポーツ合宿

B-Ⅲ 熊石の歴史……24

B-Ⅳ 八雲の歴史……26

B-Ⅴ 八雲町年表……28

C 八雲の産業……29

C-Ⅰ 農業・林業……30
1 農業
2 酪農
3 農産加工
4 林業

C-Ⅱ 漁業……32
1 漁業
2 栽培漁業
3 水産加工

C-Ⅲ 商工業……34
1 商業
2 工業

C-Ⅳ 海洋深層水……36
1 海洋深層水

D 八雲の暮らし……37

D-Ⅰ 生活環境……38
1 交通
2 住環境
3 環境・リサイクル
4 情報通信
5 安全

D-Ⅱ 医療・福祉……40
1 医療機関
2 保健・障がい者福祉
3 老人福祉

D-Ⅲ 子育て・教育……42
1 義務教育
2 高等教育
3 子育て支援

D-Ⅳ 移住・定住……44
移住者の声
八雲町の定住促進政策

D-Ⅴ 行政・協働……46
1 行政
2 住民参加

八雲町民憲章……47

項目別索引

あ行
相生公園……13
IT町民サポートセンター……39
相沼内川……10
相沼奴……20
鮎川海岸……12
アワビ……33
あわびの里フェスティバル……20
安全……39
家型石器……26
板状土偶……24
イベント……20
医療機関……40
内浦湾……7
梅村庭園（梅村亭）……13
雲石峠……12
エゾノリュウキンカ……11
円空仏……25
園芸……30
オートリゾート八雲……14
オオワシ……11
雄鉾岳……10
落部漁港……7
落部公園……13
落部公園つつじまつり……21

か行
海洋深層水……36
海洋深層水総合交流施設……36
海洋深層水の活用……36
花卉……30
上の湯温泉……18
カレイ……32
環境・リサイクル……39
奇岩雲石……24
義務教育……42
漁業……32
漁業統計……33
行政……46
熊石休養村……16
熊石漁港……9
熊石高校文化開放講座……22
熊石国保病院……40
熊石歴史記念館……25
グリーンツリーリズム……21
景観……12
鮭誕橋……12
血脈……24
見市温泉……18
公園……13
工業……35
交通……38
高等教育……43
国立病院機構八雲病院……40
子育て支援……43
骨角器……26
こどもの国……17
コミュニティホーム八雲……41
ゴリ……11
コンブ……32

さ行
栽培漁業……33
桜野温泉……18
サケ……11・32
サケマスふ化事業……33
さらんべ公園……13
山海漁猟供養塔……25
住環境……38
住民活動……46
住民参加……46
住民ワークショップ……46
商業……34
商工業統計……35
情報通信……39
シルバープラザ……41
深層水の主な成分……36
水産加工……33
水稲……30
スキー場……23
スケトウダラ……32
スポーツ……23
スポーツ合宿……23
スポンジテニス……23
青少年旅行村キャンプ場……16

た行
地域間交流……21
畜産……31
ちゃぶちゃぶ公園……16
中心商店街……34
デジタル射撃……23
徳川慶勝……26
徳川家開墾試験場……26

な行
鉛川温泉……18
日本海……9
日本フードパッカー……35
根崎神社……25
根崎神社例大祭……20
農業……30
農業統計……31
農産加工……31
農村景観……12
野田生公園……13

は行
パークゴルフ場……14
畑作……30
ハタハタ……32
服部醸造……35
パノラマ館……14
はぴあ八雲……34
浜松温泉……18
PFI事業……15
冷水岳……10
ひらたない温泉……18
ひらたない荘……17
ひらの公園……13
ファームメイド遊楽部館……31
ふれあい館……14
文化……22
文化祭……22
噴火湾パノラマパーク……14
保育施設……43
保健・障がい者福祉……41
ホタテ……33
ボタンエビ……32
北海道熊石高等学校……43
北海道新幹線……38
北海道八雲高等学校……43
北海道八雲養護学校……43
ホッキ貝……32

ま行
まきばの冒険広場……14
祭と伝統行事……20
ミニパターゴルフ場……16
ミルクロード……12
メノウ入り土偶……24
木喰仏……25
門昌庵……24

や行
八雲運動公園……23
八雲片栗粉……27
八雲漁港……7
八雲神社……26
八雲神社例大祭……20
八雲スポーツ公園……23
八雲総合病院……40
やくも大漁あきあじ祭り……21
八雲山車行列……21
八雲町郷土資料館……27
八雲町公民館……22
八雲町子育て支援センター……43
八雲町水産物産地供給センター……32
八雲町乳牛育成牧場……12・31
八雲町の定住促進政策……44
八雲町立図書館……22
八雲の温泉……18
八雲の川……10
八雲の木彫熊……27
八雲の動植物……11
八雲の山……10
やくも牧場まつり……21
八雲ミルクロードレース……23
野菜……30
ヤマキ船舶化工……35
山越内関所跡……26
ヤンカ山……10
ヤンカ山登山……23
遊楽部川……10
遊楽部公園……13
遊楽部岳……10
ユーラップ花火大会……21
幼年舎……27

ら行
酪農……31
林業……31
ルネサス北日本セミコンダクタ……35
老人福祉……41

わ行
わんぱくの森……17

［八雲町の概要］

位置

八雲町は、渡島半島の中央を占め、太平洋と日本海の二つの海に面しています。北は長万部町、今金町、せたな町。南は森町、厚沢部町、乙部町に接しています。

地勢

八雲町の面積は955.98km²。町域を渡島山系が南北に縦断し、東は遊楽部川、落部川、野田追川、西は相沼内川、見市川が流れ、流域は肥沃な農耕地となっています。

気候

太平洋側と日本海側で異なり、太平洋側が年平均気温7.9℃、暖流の影響を受ける日本海側が年平均気温9.1℃となっています。また、降水量は、日本海側が冬に多く、夏に少なくなるのに対して、太平洋側では夏に多く、冬に少なくなる傾向が見られます。

人口

市町村合併と同時に行われた平成17年10月1日の国勢調査では、八雲町の人口は2万133人、世帯数は8,002世帯となっています。

交通

八雲町には、函館市と札幌市を結ぶ国道5号、日本海側の幹線道路である国道229号、太平洋と日本海を最短距離で結ぶ国道277号が通り、渡島半島の交通の要衝となっています。平成18年には道央自動車道の八雲ICが開通しています。鉄路ではJR函館本線が運行し、北海道新幹線も計画されています。

沿革

平成17年10月1日、渡島管内八雲町と檜山管内熊石町が支庁を越えて新設合併を行い、新たに「八雲町」が誕生しました。八雲の地名は、明治14年、旧尾張藩主徳川慶勝が、古事記にある「八雲立つ 出雲八重垣妻籠みに 八重垣つくる その八重垣を」との和歌から命名したものです。この合併により日本で唯一太平洋と日本海を持つまちとなったことから、「二海郡」という新たな郡名が付けられました。

町章

八雲町の「八」と二つの海の「波頭」をモチーフに表現し、中央の小円は、太陽を表し、未来に向かって輝かしい発展をする「八雲町」の明るく元気な姿を力強くアピールしています。上越市から応募のあった金津博さんの作品を選定しました。

八雲の自然

A

A-Ⅰ 太平洋
1 内浦湾（噴火湾）

A-Ⅱ 日本海
1 日本海

A-Ⅲ 山と川
1 八雲の山
2 八雲の川
3 八雲の動植物

A-Ⅳ 景観と公園
1 景観
2 公園

A-Ⅴ 噴火湾パノラマパーク
1 噴火湾パノラマパーク
2 PFI事業

A-Ⅵ 熊石休養村
1 熊石休養村

A-Ⅶ 八雲の温泉
1 八雲の温泉

[A-I] 太平洋

水産資源に恵まれた天然の遊漁池

1 内浦湾（噴火湾）

内浦湾は、室蘭市地球岬を起点に、森町松屋崎で終わる周囲約160kmの湾。18世紀後半、イギリス船プロビデンス号のブロートン船長は、駒ヶ岳や有珠山など、噴煙を上げる火山をいくつも見たことから、ここを噴火湾と名付けました。噴火湾は、別称として今も使われています。天然の遊漁池と呼ばれるほど漁業資源が豊富で、カレイ、サケ、スケソウ、エビ、ホッキなど多くの海の幸に恵まれています。

八雲漁港
第2種漁港で、分港に山崎・黒岩・山越漁港があります。また港内に地方卸売市場があります。

落部漁港
第1種漁港で、分港に東野漁港、栄浜漁港があります。地方卸売市場があり、所属船の数は町内最多です。

A-II 日本海
光り輝く豊穣の海

1 日本海

日本海側は、対馬暖流の影響で、夏に晴天が多く、気温も高めです。冬には季節風の影響で風が強くなり、波も高くなります。日本海は、大陸と日本列島の間に挟まれた海域であることから、周辺との海水交換は表層に限られ、深層の海水は孤立した水塊と考えられています。これが日本海固有水と呼ばれ、「熊石海洋深層水」として利用されています。

熊石漁港

八雲町内で唯一の第3種漁港。第3種は利用範囲が全国的な漁港です。増養殖支援漁港、海洋深層水の活用基地として、熊石地域マリンビジョン計画の他、その基盤となる漁港整備がすすんでいます。

ポンモシリ灯台

A-III 山と川
渡島山地から2つの海に注ぐ

1 八雲の山

渡島半島には、標高1,000m程の山々が連なる渡島山地が南北に縦貫しています。遊楽部岳をはじめ、雄鉾岳、冷水岳などが連なり、雄大な山容を見せています。

雄鉾岳
標高999m。稜線が鋭く、八雲を代表する名山で登山者には中上級者向けの山として親しまれています。

遊楽部岳
標高1,277m。八雲の最高峰で、渡島半島を一望する大パノラマが楽しめます。

冷水岳
標高1,175m。遊楽部岳に続く標高第2位の山で、山を覆う天然のブナ林で知られ、登山道は「熊石山歩会」によって1992年に切り開かれました。

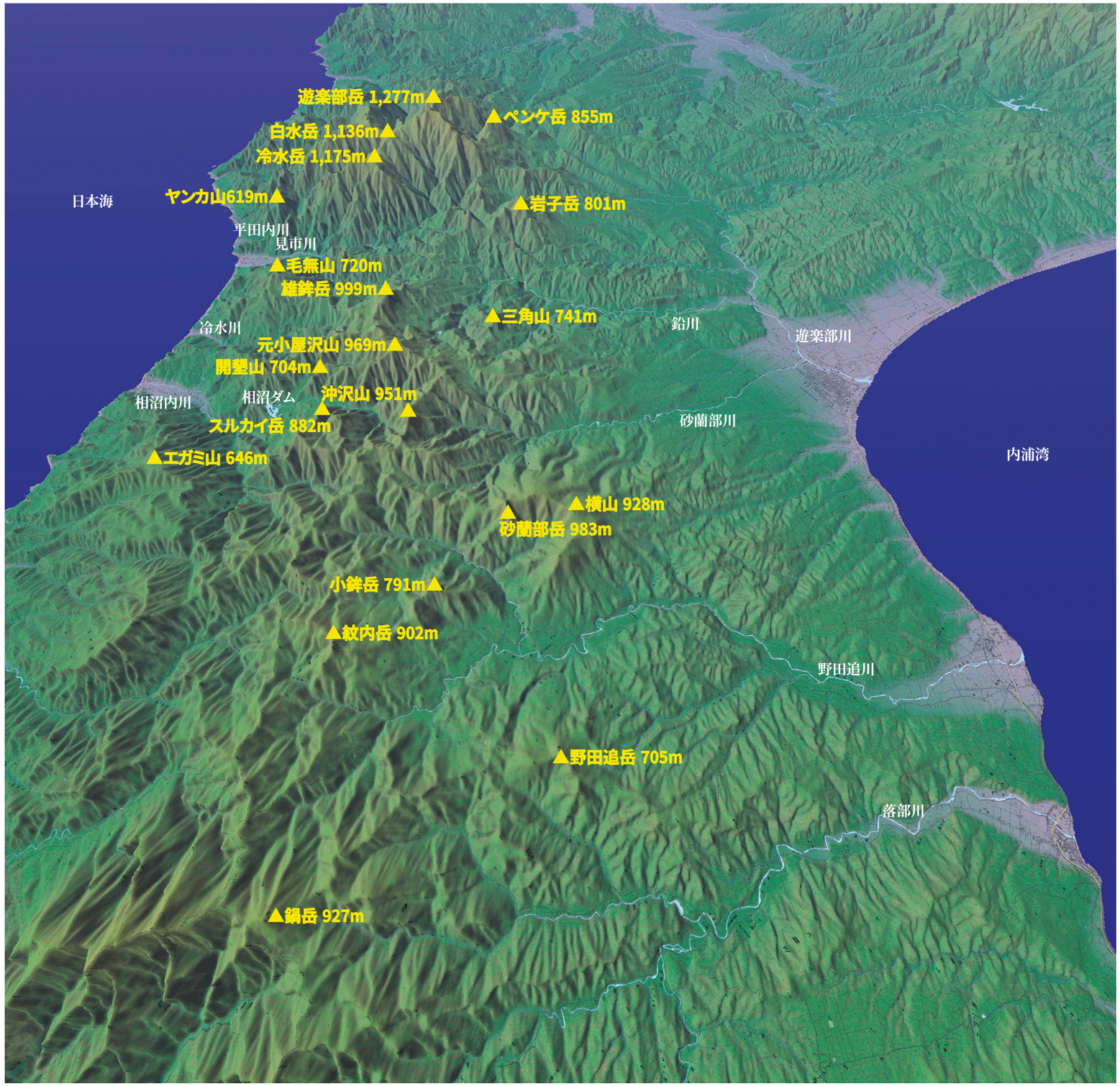
ヤンカ山
標高619m。アイヌ語の「海からそそり立つところ」が語源で、ミズナラの豊かな森が広がります。

2 八雲の川

八雲には、渡島山地を分水嶺とした、太平洋と日本海に注ぐ89の河川があります。町内に水源と河口の両方を抱え、森林のミネラルを海へ運ぶ動脈となっています。

遊楽部川
延長28.5km、流域面積351.8km²。八雲最大の河川ですが、自然の姿をとどめ、サケの自然産卵が見られます。アユの太平洋側での北限であり、シシャモとキュウリウオの南限とされています。

相沼内川
延長15.5km、流域面積65.8km²。沖沢山を源とし、相沼地区に注ぐ熊石地域を代表する河川で、上流の相沼ダムは、土木学会の「日本の近代土木遺産～現存する重要な土木構造物200選」に選定されています。

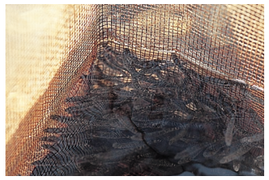


3 八雲の動植物

ブナの北限に近い八雲は、豊かな山林と、太平洋と日本海という2つの海に注ぐ多くの河川をもち、多くの動植物の生息地となっています。

オオワシ
国内最大のワシ。国の天然記念物で、遊楽部川流域は、道南では珍しいオオワシの飛来地となっています。

エゾノリュウキンカ
黄色の花が愛らしいキンポウゲ科の花で、八雲町では山から湧き出るせせらぎに沿って群落を作っています。



ゴリ
正式にはウキゴリというカジカ科の魚。北陸や四国などで風物詩となっているゴリ漁が、遊楽部川で見られます。

サケ
サケは遊楽部川を代表する魚で、秋にはあちらこちらで、産卵のためそ上する姿が見られ、「ユーラップの鼻曲がり」として有名です。

A-IV 景観と公園

太平洋と日本海の個性と輝き

1 景観

太平洋を望む景観と日本海を望む景観、そして内陸部の牧歌的農村景観。八雲は多様な景観資源を有しています。

農村景観
早くから西洋農法に取り組んできた八雲の農村景観はどこかヨーロッパ的です。

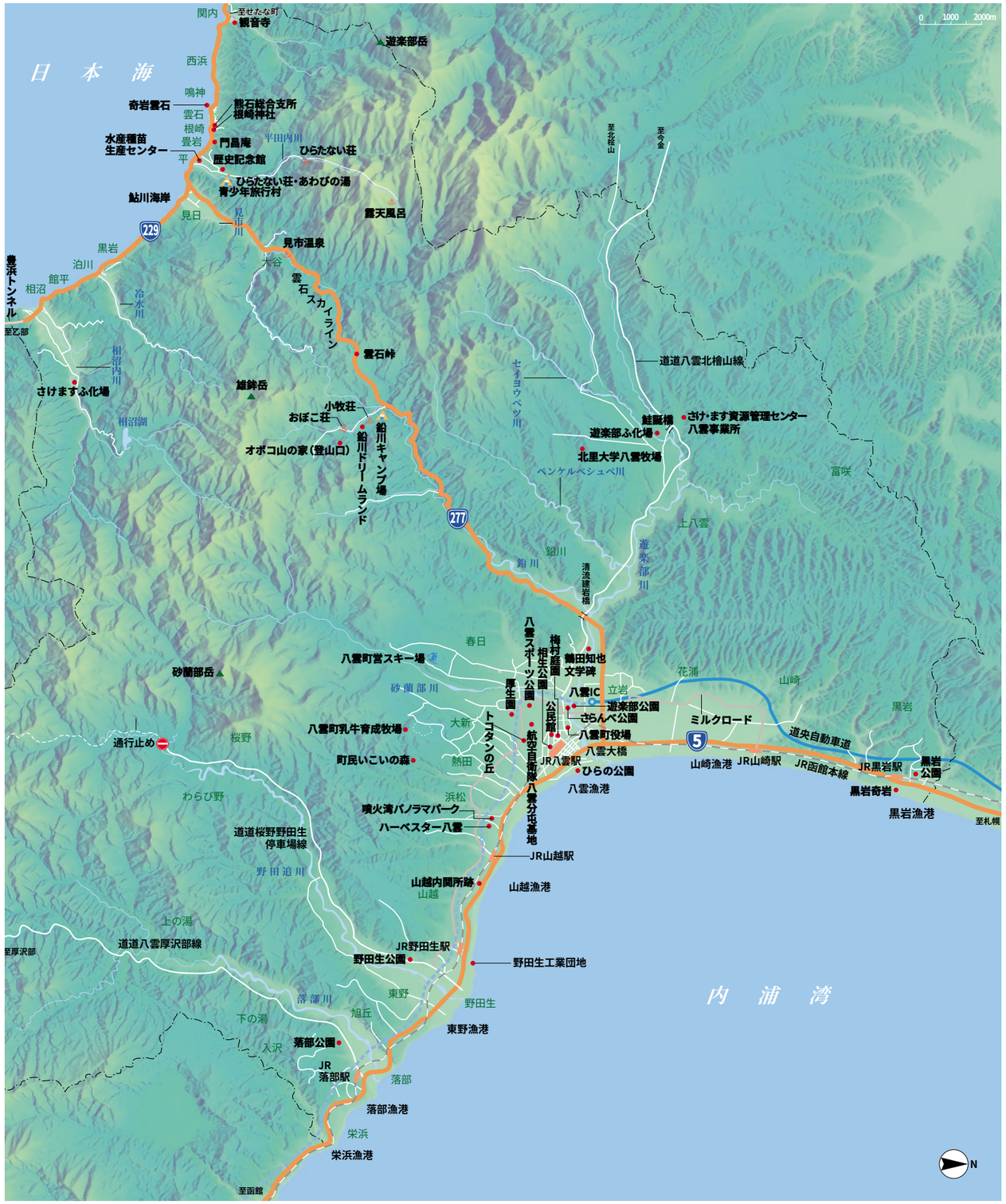
八雲町乳牛育成牧場
総面積279ha。広大な牧野の彼方に噴火湾が広がる八雲を代表する景勝地です。

鮎川海岸
砂浜や岩礁が6kmに渡って続く美しい海岸。大島、奥尻島を望めます。

鮭誕橋
遊楽部川の支流セイヨウベツ川に架かる橋で、サケの自然産卵を間近に見ることができます。

雲石峠
八雲地域と熊石地域を結ぶ峠で、沿道では美しい渓谷美が見られます。道南八景の一つに数えられた紅葉の名所です。

ミルクロード
国道5号と併走する広域農道は、牧場を縫うように走ることからミルクロードと呼ばれます。



2 公園

八雲町では、歴史的な庭園や町を代表する河川を活かした公園のほか、ツツジや桜をテーマにした公園など、町民いこいの公園が多く整備されています。

梅村庭園（梅雲亭）
北海道では珍しい池泉回遊式の庭園。八雲で広く商売を営んだ梅村多十郎の庭園跡で、平成15年に整備されました。

相生公園
八雲市街地にある都市公園。ゲートボール場や散策路があり、町民のいこいの場となっています。

野田生公園
野田生地区にある広さ1万7千㎡の農村公園。ツツジの名所でパークゴルフ場とスイレンの池があります。

遊楽部公園
遊楽部川下流につくられた公園で、多目的広場、パークゴルフ場、活性化施設等が整備されています。

ひらの公園
平成14年につくられた都市公園で、町民から寄贈を受けた約2万㎡の用地をもとに造成されました。

さらんべ公園
遊楽部川と砂蘭部川の合流地点にある公園。桜の名所で知られ、せせらぎ水路・マーメイド・平和の鐘などがあります。

落部公園
噴火湾と落部市街を一望する高台にある公園。春には5千本のツツジで赤く染まり、6月初めに「ツツジまつり」が開催されます。

A-V 噴火湾パノラマパーク

道央自動車道に直結する道立公園

1 噴火湾パノラマパーク

平成18年に10ヵ所目の道立公園として、噴火湾パノラマパークが一部オープンしました。総面積63.7haの広大な敷地のなかに、オートキャンプ場、パークゴルフ場、ピクニック広場、ふれあい農園などの施設が整備されています。

パノラマ館
施設全体のビジターセンターで、総合案内をはじめ地域の観光情報を発信しています。館内には、遊具コーナーや軽食コーナーなどがあります。

パークゴルフ場
噴火湾を望む45ホールのコースがあり、行き届いたコース設計が、ビギナーからベテランまで広く人気です。

まきばの冒険広場
北海道で初めてのボールネットやエンドレスターザンロープなど、ほかには見られない遊具があり、大人から子どもまで楽しむことができます。

オートリゾート八雲
アウトドア専門誌BE-PALを発行する小学館などの民間活力導入事業で整備されたオートキャンプ場で、キャンーパーニーズに沿った最新鋭の施設が特徴です。

バーベキューハウス

ふれあい館
クラフトに挑戦したり、隣接するふれあい農園で収穫した食材を使って料理を楽しんだりと、体験型の活動拠点です。

2 PFI事業

PFI事業とは、民間の優れた企画・運営能力を、公共施設の管理運営に導入する事業で、事業コストの低減と質の高いサービスの提供が期待されています。噴火湾パノラマパークは、清水建設、東急コミュニティー、小学館プロダクション、宮坂建設工業の各社で設立されたPFI会社によって、施設の運営・管理が行われています。

[A-VI] 熊石休養村
32万㎡の広大なアウトドアフィールド

1 熊石休養村

熊石休養村は、平田内川沿いに広がる32万㎡の広大な面積を持つアウトドアフィールドです。宿泊温泉施設「ひらたない荘」を中心に、キャンプ場、ちゃぷちゃぷ公園、こどもの国などの施設があります。施設の中央を流れる平田内川を巧みに取り入れたレイアウトで、子どもから大人まで広く楽しめます。また、春には桜の名所としても知られています。

青少年旅行村キャンプ場
全面芝の5万㎡の広さを持つキャンプ場で、300張のテントが設置可能です。ユニークなツリーハウスもあります。

ちゃぷちゃぷ公園
平田内川の親水護岸を中心とした施設で、河川すべり台、ゆらゆら橋など、水と触れあう施設がいっぱいです。

ミニパターゴルフ場
パークゴルフとは違い、本物のパターとゴルフボールを使い、グリーンでの寄せの技術を競います。

ひらたない荘
熊石休養村の中核施設で、地場のアワビを使った料理と温泉が人気です。また「あわびの湯」は日帰り入浴も可能です。

こどもの国
バッテリーカー、ローラーすべり台、トリムコーナーなどの遊具施設があります。

わんぱくの森
平田内川の右岸の山すそに広がる森で、ハイキングや森林浴の場として利用されます。高台からは日本海を望めます。

ツリーハウス

キノコログ

A-VII 八雲の温泉

多様な泉質を誇る山間の6つの温泉

1 八雲の温泉

渡島山地の山ひだに、情緒豊かな温泉宿が点在する八雲は、多様な泉質に恵まれた温泉郷です。八雲地域、熊石地域にはそれぞれ多様な泉質に恵まれた温泉があります。

熊の湯

あわびの湯

ひらたない温泉

平田内川沿いの熊石休養村には、ひらたない荘・あわびの湯と秘境の野天風呂熊の湯があります。

銀婚湯

桜野温泉

渓流釣りが楽しめる野田追川上流には、桜野温泉熊嶺荘があります。

見市温泉

雲石峠のふもと、見市川の上流にある江戸時代から続く湯治場です。

パシフィックホテル清瀧園

上の湯温泉

落部川上流の温泉で、温泉旅館銀婚湯とパシフィックホテル清瀧園があります。

八雲遊楽亭

浜松温泉

国道5号に面した噴火湾を望む温泉で、温泉ホテル八雲遊楽亭があります。

鉛川温泉

鉛川上流の山間部にある温泉で、八雲温泉おぼこ荘と町営の小牧荘があります。小牧荘は、愛知県小牧市との交流から生まれた研修宿泊施設です。

八雲の文化

B

B-I イベント・交流
1 祭と伝統行事
2 イベント
3 地域間交流

B-II 文化・スポーツ
1 文化
2 スポーツ
3 スポーツ合宿

B-III 熊石の歴史

B-IV 八雲の歴史

B-V 八雲町年表

B-I イベント・交流

伝統とイベント　新たな舞台

1 祭と伝統行事

熊石地域では、松前藩以来の歴史と伝統に根ざした祭りが行われ、八雲地域では、開拓者の郷里にある熱田神宮から分社された八雲神社例大祭が行われています。

根崎神社例大祭　8月13日～15日

「天狗さん」と呼ばれる猿田彦を先頭に各地区から出される8台の山車と神輿の渡御が行われます。

相沼奴

1859年、相沼八幡神社の本殿再建の際に、本州から来たやん衆によって行われたのがはじまりとされ、江戸時代以来の様式を引き継ぎ、8月の大祭、5月のあわびの里フェスティバルで披露されます。

八雲神社例大祭　6月20日～23日

八雲神社は、旧尾張藩主徳川慶勝が八雲に農場を開いた際に、故郷の熱田神宮神符と尾張徳川家歴代の神霊を祭ったのがはじまりで、明治20年に全国で唯一の熱田神宮の分社となっています。毎年6月に例大祭が行われています。

2 イベント

若者たちの発案によって広まり、北海道を代表する祭に育った山車行列をはじめ、八雲地域、熊石地域、それぞれで多彩なイベントが行われています。

あわびの里フェスティバル

5月第3日曜日

熊石産アワビをPRするイベントで、アワビの直売、アワビつかみ取り、アワビ弁当などで新鮮なアワビを楽しめることから2万人以上の人出で賑わいます。

落部公園 つつじまつり

6月第1日曜日

5千本のツツジで赤く染まる落部公園で開かれる春祭りで、ジャンボビンゴ大会やクイズ大会、特産品の販売などが行われます。

やくも牧場まつり　8月第1日曜日

酪農にちなんだイベントで、町営乳牛育成牧場を会場に、牧草ロールジャングルジム、搾乳体験などが行われます。

八雲山車行列　7月第1金・土曜日

昭和57年に、青年団体の連合組織「若人の集い」がリヤカーにあんどん型の山車を乗せて町内を練り歩いていたのが始まりで、翌年から八雲神社の祭りにあわせて行われ、年々盛んになり、北海道の3大あんどん祭りの一つに数えられています。青年たちの手作りイベントとして高く評価され、国土庁長官賞や北海道知事賞などを受賞しています。

やくも大漁 あきあじ祭り

10月第4日曜日

八雲漁港を会場に、サケのつかみ取りやサケ山漬け・ホタテ・ホッキなどの海産物の販売が行われます。

3 地域間交流

八雲地域は、旧尾張藩の家臣らによって開拓が行われたことから、今も、名古屋など旧尾張藩地域との交流が活発です。昭和57年、小牧市を訪れた尾張徳川家20代当主徳川義知氏が八雲町との縁を紹介したのがきっかけとなって、小牧市との交流が続いています。また、名古屋市との交流も活発で、町民ドックでは名古屋大学・藤田保健衛生大学などの支援を受けています。島根県旧八雲村とも民間団体「八雲村との交流を進める会」が中心となって、交流が続いています。

小牧市民のいもほり体験

ファームネット八雲

グリーンツーリズム

八雲の自然と農業の生産文化を通して、都市との交流を図る取り組みが活発です。農業農村に対する理解を深めることや農畜産物の加工体験、手作り加工食品の研究、開発を行うことを目的に、ファームメイド遊楽部館が設置されました。また、都市農村交流に積極的な農家などによって、ファームネット八雲がつくられ、交流の受け皿となっています。

B-II 文化・スポーツ
恵まれた環境を活した活発な取り組み

八雲町立図書館

1 文化
公民館や図書館を中心に多彩な活動が行われています。

ほんのもり号

八雲町立図書館
蔵書数10万冊の町立図書館では、図書に親しんでもらう事業のほか、ロビーコンサート、文化講演会や文学史跡めぐりなど各種事業が活発に行われています。また、移動図書館車「ほんのもり号」は約1,300冊の本を載せて町内を巡回しています。

八雲町公民館

八雲町公民館
学習・文化活動の拠点となっている施設で、パソコンや絵画などの各種学習・文化講座等を行っています。また、町内の団体、サークルが自主的に行う活動や催し物に利用されています。

公民館講座

熊石高校文化開放講座
熊石高校では、地域に開かれた学校を目指し、町民を対象としたパソコン講座などを開催し、高校の高い教育機能を地域に還元する活動が行われています。

文化祭
八雲町文化祭は、芸能発表会と創作展示に分かれて一年間の成果発表の場として開催されます。落部地区、熊石地域でもそれぞれ文化祭が開催されます。

2 スポーツ
八雲町では『いつでも・どこでも・だれでも』参加できるスポーツの町を目指し、健康づくりと生涯スポーツに取り組んでいます。

八雲スポーツ公園
第3種公認陸上競技場や天然芝の多目的グランド、全天候型テニスコートが整備された公園で、スポーツ合宿の拠点ともなっています。

総合体育館

温水プール

八雲運動公園
総合体育館、温水プールのほか、野球場、ソフトボール場、テニスコートなどの屋外施設を加えた総合スポーツ施設です。

ヤンカ山登山
熊石地域にあるヤンカ山では、毎年昭和の日に登山会が行われます。春の野草や山菜などを楽しむ多くの登山者で賑わいます。

デジタル射撃
デジタル射撃は、射撃の楽しさを多くの人に知ってもらおうと開発された赤外線レーザー銃を使って行う競技です。八雲で全国大会が開催されるなど、日本での中心地の一つになっています。

スポンジテニス
平成8年に八雲町で誕生したニューファミリースポーツ。お年寄りから子どもまで手軽に楽しめる生涯スポーツとして普及しています。

八雲ミルクロード レース
平成18年で21回を数えるハーフマラソンで、牧場を結ぶミルクロードを走ります。10km、5km、2kmのコースもあります。

スキー場
八雲町営スキー場には、ペアリフトと初級者から上級者までの3コースが整備されています。また熊石休養村ひらたないスキー場にはTバーリフトが設置されています。

3 スポーツ合宿
スポーツに適した気候に恵まれ、施設も充実していることから、実業団・大学・高校やスポーツ少年団などの合宿が盛んです。夏を中心に毎年20チーム前後が訪れ、アトランタ五輪マラソン銅メダリストのE・ワイナイナ選手が合宿地に選んだ実績もあります。

スポーツ合宿

[B-Ⅲ] 熊石の歴史

松前藩最北端に開いた文化

メノウ入り土偶・板状土偶
メノウ入り土偶の実物は国立民族博物館に収蔵されており、その精巧なレプリカが、熊石歴史記念館に展示されています。他に板状土偶など貴重な出土品が展示されています。

奇岩雲石
熊石地域のシンボルとして大切に祀られています。

門昌庵と柏厳和尚直筆の「血脈」
山門は、5世慶広の代に秀吉から譲り受けた桃山別殿の裏門を松前藩16世藩主昌広が寄進したものです。

▽ 日本を驚かせたメノウ入り土偶

昭和41年、国道229号、熊石町鮎川付近の砕石現場で、奇妙なものが発見されました。それは土でできた人型にメノウの石がはめ込まれたもので、縄文時代の土偶のようでした。メノウをはめ込んだ土偶の前例はなく、この発見は当時、新聞テレビで大々的に報道されました。メノウ入り土偶が見つかった鮎川洞窟遺跡からは、縄文時代の遺物が多数発見され、全国的にも貴重な遺跡となりました。

またこの発見は、熊石の地が、太古から海の幸に恵まれた豊かな土地であったことを示しました。

▽ 奇岩雲石伝説

時代が下って松前藩の時代になると、熊石は和人地の北辺、蝦夷地との境界となりました。松前藩は、上ノ国の武将武田信廣の活躍と、その子孫である蠣崎慶長が、徳川家康から蝦夷地の領主として認められたことからはじまります。武田信廣は、上ノ国花沢館の館主蠣崎季繁に身を寄せていた客将でしたが、1457年、コシャマインの戦いが起きると、わずかな手兵を率いてコシャマインを倒し、和人社会を消滅の危機から救いました。

戦いの後も、アイヌ民族との争いは絶えることなく、1529年には、西部の族長タナケシが蜂起。日本海岸を攻め下り、次々と和人の兵を打ち破りました。タナケシ軍に追われた和人の大将工藤裕致は、逃げ場を失い熊石の海岸に追いつめられました。追っ手から逃げて岩陰に隠れると、突如、雷鳴がとどろき、岩から黒雲が沸きだしました。これに驚いたタナケシ軍は追討をやめ、工藤裕致は、からくも逃げ戻ることができました。これを「奇岩雲石伝説」と言います。

▽ 門昌庵事件

1678年、松前藩を揺るがす事件が、熊石を舞台におこります。当時の松前家当主矩廣は侍女の松枝を溺愛し、藩政は乱れました。松枝を快く思わない家臣は、松枝を遠ざけるため、法幢寺の住職であった柏厳和尚と松枝の間に不義密通があると言って松枝を陥れようとしました。これを信じた矩廣は松枝を斬りつけ、柏厳和尚は松前地の北辺だった熊石に流されるのです。柏厳和尚は、えん罪にもかかわらず素直に従い、熊石に草庵を結びました。これが門昌庵です。しかし、矩廣の嫉妬は収まらず、和尚を門昌庵の門前で処刑します。この後、松前では天変地異・災害が相次ぎ、人々は柏厳和尚の祟りを噂しました。

芝居にまでなった門昌庵事件ですが、松前藩に記録が無く、長い間事実が疑われていました。昭和39年、門昌庵で柏厳和尚が実在したことを示す「血脈」という文書が発見され話題となりました。

▽ 円空と木喰

松前藩の北端は、当時の「日本」にとっても北端の地であったことを意味します。この最北のロマンに誘われて古より熊石には、多くの文人墨客が足を伸ばしました。

1296年、日蓮宗の開祖日蓮上人の高弟の一人であった日持上人が天竺に行くため、熊石を通って大陸へと渡ったと言います。熊石の七面山には、日持上人の口碑伝説が残されています。

日持上人からおよそ350年後の1666年。旅の仏師円空が熊石に滞在して多くの仏像を作成しました。黒岩地区には円空がこもって作仏をしたと伝えられる洞窟がありましたが、今は失われています。

円空上人から100年後。高野山の修行僧木喰行道が熊石法蔵寺で地蔵菩薩の大作を残しました。木喰行道は1773年、57歳のときに諸国廻国を志し、1778年に蝦夷地に渡り、円空仏に出会いった感動から仏像制作を志しました。木喰行道は、生涯に千体以上の仏像を残しましたが、その出発点は熊石村と太田山で行った作仏にあると言われます。

▽ 海がつくった文化

江戸時代から熊石に多くの人々が引きつけられたのは、ここがニシンで沸く、豊かな港町であったからでもありました。明治七年の記録によれば、熊石の前浜に張られた建網二十六統、刺し網にいたっては三千六百八法にも及んでいます。また、明治前期北海道を代表する七人の漁業家のうち、山田喜代治、猪股作蔵の二人が熊石から選ばれています。

漁業による富は、熊石に豊かな文化を残しました。1859年に相沼八幡神社本殿再建に際しておこなわれた行列を起源とする相沼奴や京都祇園祭の流れを汲む根崎神社の山車行列などに、ニシンで栄えた時代の熊石の文化の高さが今も残っています。

北山神社観音座像

根崎神社観音立像

円空仏
熊石には、根崎神社の観音立像、北山神社の観音座像、相沼八幡神社の来迎観音座像の3体が伝えられています。

法蔵寺地蔵菩薩像

薬師寺地蔵菩薩像

木喰仏
熊石には、法蔵寺と薬師寺に作品が伝わっています。中でも法蔵寺のものは、高さ206cmと大きく、全国に数多く残る仏像の中でも屈指のものとされます。

山海漁猟供養塔
法蔵寺にある1721年に当時の熊石村民が建てた供養塔で、自然の恵みへの感謝の気持ちを表しています。当時の生活資料として貴重なものです。

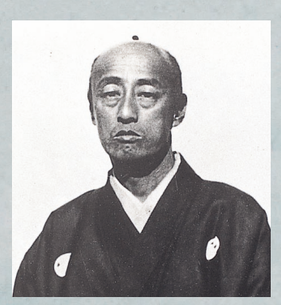
根崎神社
北海道でも長い歴史を持つ神社で、1606年に乙部村八幡神社の神主宇田播磨守豊島が当神社の祭儀を初めて行ったという記録があります。

熊石歴史記念館
鮎川遺跡メノウ入り土偶などの遺跡出土品や熊石番所の復元模型など熊石地域の貴重な歴史資料を収蔵・展示しています。

[B-IV] 八雲の歴史
尾張徳川が北に開いた大志

家形石製品と骨角器
栄浜1遺跡から平成9年に出土。約4600年前の縄文時代の出土品で、当時の住居の形を表した全国でも唯一の石製品として注目されています。またコタン温泉遺跡からは縄文時代後期の精巧な骨角器が多数出土し、国の重要文化財に指定されました。

山越内関所跡
1801年に設置された最北の関所で、罪人を切るために座らせた、夜になると泣き声のするという伝説のある夜泣き石があります。



徳川慶勝
父は尾張藩の支藩であった美濃国高須藩主の松平義建。1934年八雲神社に合祀されました。

八雲神社
1879年に故郷の熱田神宮神符と尾張徳川家歴代の神霊を祭ったのが起源。1888年には徳川家を経て熱田神宮の分霊を行ったため全国でただ1か所の熱田神宮の分社となっています。

▽ 東の関所

幕藩時代、蝦夷地と和人の日本海側の境界は熊石でしたが、太平洋側の境界は八雲町山越にあったのです。

18世紀後半になると、北海道周辺に多くの外国船が出没するようになります。これに脅威を感じた幕府は、松前藩から東蝦夷地を取り上げ、直轄地としました。この時幕府は、現在の函館市亀田にあった関所を山越に移したのです。

松前藩の希望により1821年に復領しますが長続きせず1855年幕府が最直轄をします。1861年には山越内関所も廃止されましたが、山越は内浦湾岸の中心地として栄えました。

▽ 徳川慶勝

明治になり、蝦夷地から北海道に改められると、本格的な開拓が始められました。明治11年、遊楽部川流域の開墾を願い出たのが、旧尾張藩主徳川慶勝でした。徳川慶勝は、徳川御三家筆頭尾張藩の14代藩主で、幕末に大老井伊直弼と対立。1858年に隠居を命じられ、弟に家督を譲ったものの、幕末維新の激動の中で大藩の実力者として活躍しました。

明治8年、当主に復帰すると、藩籍奉還によって禄を失った家臣団の授産のために、明治11年遊楽部原野の開墾を開拓使に願い出ました。この時、慶勝が自ら名づけた村名が「八雲」でした。

▽ 徳川家開墾試験場

明治11年、旧尾張藩士15戸72人、単身者10人が遊楽部に移住し、のちに徳川農場と呼ばれる徳川家開墾試験場が誕生しました。

多くが武士の出であった徳川農場の人々は、伝統的な農法に不慣れだったため、いち早く西洋農法に取り組むことができました。西洋農法の普及を図っていた開拓使の協力を得て、明治18年には官民共有牧場が作られ、西洋式の酪農が営まれます。こうしたことから、八雲は北海道での酪農の発祥地の一つに数えられています。

▽ 木彫り熊の発祥

歴代の徳川家当主の中でも徳川義親は、八雲の発展に情熱を注ぎました。

北海道の代表的な土産品である熊の木彫りは、義親が、冬期間雪に閉ざされる八雲農場を思い、スイスからもたらしたものです。大正10年ヨーロッパを旅行した義親は、スイスの農民が冬に木彫りの土産品をつくっている姿を見て、八雲にも広めようと、日本画家の十倉兼行や伊藤政雄を指導者にして、普及を図りました。この時、義親は「とにかく作ってみろ。できたものはすべて買い上げる」と宣言したと伝えられています。

▽ 幼年舎

徳川家は教育にも熱心に取り組みました。明治18年、徳川家開墾試験場では、次代の担い手を育成するため、数え年12歳から16歳の士族の子弟を両親から離して移住させ、幼年舎に収容しました。農作業の手伝いをさせるとともに、学校教育の終わっていない者は学校に通わせました。

明治23年に成年舎と改称し、全員の教育修了をまって開墾に専念させたといいます。また優秀な青年を札幌農学校（後の北海道大学）に遊学させたりもしました。

ここからは、八雲町長となった内田文三郎、養鶏家の八尾吉之助、バター飴を発明し一世を風靡した榊原安茂など、後に八雲の中枢的な役割を果たす人物が多く輩出されました。

▽ 八雲片栗粉

明治後半に世界を席巻した八雲片栗粉も、八雲の新進の気風が産んだ歴史の産物でした。

開拓使は、自給作物として馬鈴薯の作付けを奨励し、八雲でも盛んに作付けが行われました。しかし、当時は馬鈴薯の貯蔵技術が未発達で、腐らないうちにデンプンなどに加工しなければなりませんでしたが、この当時、デンプン製造技術は未熟でした。明治29年、八雲町の川口良昌が画期的なデンプン製造装置を開発しました。これにより八雲はデンプン製造の中心地となり、「八雲片栗粉」のブランドは日本一を誇るようになりました。

デンプン製造は、第1次大戦後の市況の変化で下火になるものの、先進の気風と創意工夫の精神は、長く八雲の地に受け継がれていきました。

木彫り熊1号（右）と手本となったスイスの熊の木彫（左）

八雲農民美術研究会

八雲の木彫り熊
徳川義親の呼びかけに応えて昭和3年、八雲農民美術研究会が発足し、木彫り熊が盛んに作られるようになりました。

八雲片栗粉
明治38年ころまで東京市場において第1位を占めていた千葉県産のでんぷんを制圧し、40年には早くも全国第1位の高値で取り引きされるようになりました。

八雲町郷土資料館
徳川家の遊楽部川開拓を中心に、八雲地域の旧石器時代から開拓時代にいたるまでの歴史資料が展示されています。縄文文化体験などの事業が行われています。

B-V 八雲町年表

日本海と太平洋にまたがる500年の歴史

1529(享禄 2)年	(熊石地域)	雲石の変（奇岩雲石伝説）
1606(慶長 11)年	(熊石地域)	根崎神社創立
1666(寛文 6)年	(熊石地域)	円空、熊石に滞在して根崎神社、北山神社のご神体を刻む
1678(延宝 6)年	(熊石地域)	柏厳和尚、熊石門昌庵で斬首(門昌庵事件)
1691(元禄 4)年	(熊石地域)	相沼内番所、熊石に移る
1721(享保 6)年	(熊石地域)	法蔵寺前に山海漁猟供養塔建立
1772(安永元)年	(八雲地域)	遊楽部鉱山で山崩れのため死者多数。
1773(安永 2)年	(八雲地域)	山越内に会所を設置
1780(安永 9)年	(熊石地域)	木喰上人、宝蔵寺地蔵菩薩像を完成
1800(寛政12)年	(八雲地域)	幕府山越内を「華夷の境」と定む。翌年山越内関門設置
1858(嘉永 5)年	(八雲地域)	山越内場所「村方並」となる
1859(安政 6)年	(熊石地域)	この年、相沼奴できる
1861(文久 元)年	(八雲地域)	山越内の関門を廃して自由通行許可
1868(明治元)年	(熊石地域)	榎本軍によって松前城落城、藩主徳広、関内から津軽に落ちのびる
1873(明治 6)年	(熊石地域)	海産税に反発し、檜山管内の漁民騒動(檜山騒動)
	(熊石地域)	熊石、泊川、相沼に戸長役場が設置される
1877(明治10)年	(熊石地域)	熊石戸長役場できる
1878(明治 11)年	(熊石地域)	雲石・相沼内・泊川、各小学校開校
	(八雲地域)	徳川慶勝、遊楽部官有原野150万坪の無償払い下げを受ける。
1879(明治12)年	(八雲地域)	八雲学校設立
1880(明治13)年	(八雲地域)	開墾試験場で函館支庁の委嘱を受けて、鮭魚天然孵化事業試験開始
1881(明治 14)年	(八雲地域)	遊楽部・黒岩の2支郷を八雲村と称し「山越内村外一か村戸長役場」設置
1884(明治17)年	(八雲地域)	八雲神社神殿落成
1886(明治19)年	(熊石地域)	相沼内村、泊川、熊石戸長役場と合併
1889(明治22)年	(八雲地域)	「徳川家郷約」を発布、徳川農場、植民制度を廃止、小作制度に改正
1902(明治27)年	(八雲地域)	八雲村と山越内村の2村が合併し、2級町村制施行を行い、八雲村とする
1897(明治30)年	(八雲地域)	川口良昌「川口式デンプン製造法」発明
1894(明治35)年	(熊石地域)	二級町村制施行、熊石村になる。この頃からニシン漁が衰退する。
1903(明治36)年	(八雲地域)	鉄道開通、管内4駅野田追・山越内・八雲・黒岩開駅
1905(明治38)年	(八雲地域)	八雲片栗粉同業組合設立
1907(明治40)年	(八雲地域)	1級町村制を施行する。
1912(明治45)年	(八雲地域)	徳川家開墾地は徳川農場と改め、会所を廃して事務所設置
1913(大正 2)年	(熊石地域)	ニシン最後の大漁
1915(大正 4)年	(八雲地域)	落部村二級町村制施行
1916(大正 5)年	(八雲地域)	一次世界大戦で農産物価格暴騰
1919(大正 8)年	(八雲地域)	八雲町制施行

1920(大正 9)年	(八雲地域)	八雲電気株式会社、砂蘭部川上流に発電所開設
1922(大正11)年	(熊石地域)	八熊道路完成
	(八雲地域)	北海道煉乳株式会社、牛乳の受け入れを開始
1930(昭和 5)年	(熊石地域)	相沼内発電所完成
	(八雲地域)	木彫り熊、日本土産品として帝国工芸会長推奨
1933(昭和 8)年	(八雲地域)	八雲熊石自動車合資会社成立
		八雲ー熊石間のバス運行
	(熊石地域)	熊石船入澗完成
1937(昭和12)年	(八雲地域)	北海道鮭鱒ふ化場渡島支場が設置される
1939(昭和14)年	(八雲地域)	酪農振起20周年記念として乳牛感謝の碑建立
1943(昭和18)年	(八雲地域)	八雲陸軍飛行場完成
1947(昭和22)年	(熊石地域)	相沼大火(146戸全焼)
1953(昭和28)年	(熊石地域)	国民健康保険組合直営診療所開院
	(八雲地域)	八雲漁港起工式を行う
1956(昭和31)年	(八雲地域)	集約酪農地域に農林省から指定される
1957(昭和32)年	(八雲地域)	落部村合併
1959(昭和34)年	(熊石地域)	三漁協合併し、熊石漁業協同組合となる
1960(昭和35)年	(熊石地域)	人口がピークを迎える(1万49人)
1962(昭和37)年	(熊石地域)	熊石町制施行
1964(昭和39)年	(八雲地域)	乳牛育成牧場造成工事はじまる
1966(昭和41)年	(熊石地域)	鮎川洞窟遺跡の発見
1967(昭和42)年	(八雲地域)	八雲町、総合経営部門で自治大臣賞を受賞
1972(昭和47)年	(熊石地域)	国民宿舎ひらたない荘営業開始
	(八雲地域)	広域農道「ミルクロード」起工
1974(昭和49)年	(熊石地域)	運輸省指定青少年旅行村完成
1975(昭和50)年	(八雲地域)	町営八雲温泉落成
1978(昭和53)年	(八雲地域)	八雲町100年記念式典・郷土資料館開館
1979(昭和54)年	(熊石地域)	八熊線全線舗装化
1982(昭和57)年	(熊石地域)	アワビ中間育成始まる
1983(昭和58)年	(熊石地域)	道立水産ふ化場熊石支場完成
1987(昭和62)年	(熊石地域)	歴史記念館開館
1990(平成 2)年	(熊石地域)	防災行政無線放送開始
1991(平成 3)年	(八雲地域)	国道5号の改修終わる(4車線化)
1993(平成 5)年	(八雲地域)	八雲町の地域CIが「自然美術館・八雲」に決まる
1995(平成 7)年	(熊石地域)	第1回あわびの里フェスティバル
1997(平成 9)年	(八雲地域)	シルバープラザ、ファームメイド遊楽部館開設
1995(平成10)年	(八雲地域)	八雲山車行列、国土庁長官賞を受賞
2003(平成15)年	(熊石地域)	海洋深層水供給施設、総合交流施設開設
2005(平成17)年	(八雲地域)	山越郡八雲町と爾志郡熊石町が新設合併し、二海郡八雲町となる。
2006(平成18)年	(八雲地域)	道立公園　噴火湾パノラマパーク開園
		北海道縦貫自動車道八雲IC完成

八雲の産業

C

C-Ⅰ 農業・林業
1 農業
2 酪農
3 農産加工
4 林業

C-Ⅱ 漁業
1 漁業
2 栽培漁業
3 水産加工

C-Ⅲ 商工業
1 商業
2 工業

C-Ⅳ 海洋深層水
1 海洋深層水

[C-I] 農業・林業
道南最大の食料生産基地

馬鈴薯の収穫

1 農業
八雲町の専業農家率は、61.36%と高く、道南地方を代表する農業地帯として知られています。近年は花卉栽培やハウス園芸が進展しているほか、温泉熱や海洋深層水の農業への活用がすすむなど、多様な営農が取り組まれています。また、担い手・後継者の育成を図るとともに新規就農者の受け入れに取り組んでいます。

ほうれん草

水稲
八雲地域の稲作は、もち米の面積が大半を占め、平成10年度から全水田にモチ米の「風の子モチ」を作付けしています。

軟白ネギ

野菜
軟白ネギは、平成18年に生産高2億円を突破し、北海道を代表する生産地に育っています。

高設イチゴ

園芸
高設イチゴ栽培、温泉熱や海洋深層水を利用したトマト栽培など、新たな試みが見られます。

カスミソウ
花卉
花卉栽培は、稲作からの転作として始まったもので、水田複合ではかすみ草とスターチス、酪農複合ではグラジオラスが主に栽培されています。

畑作
馬鈴薯、豆類、甜菜などを中心とした輪作体系が確立しています。馬鈴薯は種芋用として各産地に送られています。

2 酪農
八雲町は、早くから西洋農法を積極的に取り入れたため、北海道酪農の発祥地と呼ばれています。現在でも乳牛頭数1万頭、生乳生産4万5千tと道南随一の規模を誇ります。

フリーストール牛舎

八雲町乳牛育成牧場
酪農家から子牛を預かり、搾乳できるようになるまで育てる牧場で、夏の間、170haの広大な草地に育成牛が放牧されています。

畜産

畜産分野では黒毛和種の生産が盛んで、約1300頭が飼育されています。養豚も盛んで日本フードパッカー道南工場と畜場が立地するなど、道南地方の畜産の中心地となっています。

3 農産加工
多種多様な農産物に恵まれる八雲では農産加工も盛んに行われています。

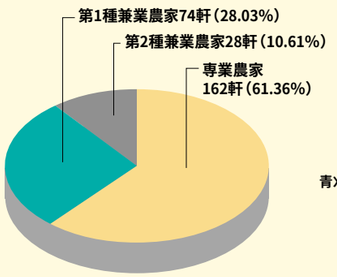
乳製品

ファームメイド遊楽部館
農畜産品の開発拠点となっているのが「ファームメイド遊楽部」です。アイスクリーム、チーズ、ハム、ソーセージ、薫製づくりのできる設備があり、町内の農産物加工グループやその他一般の団体などに利用されています。

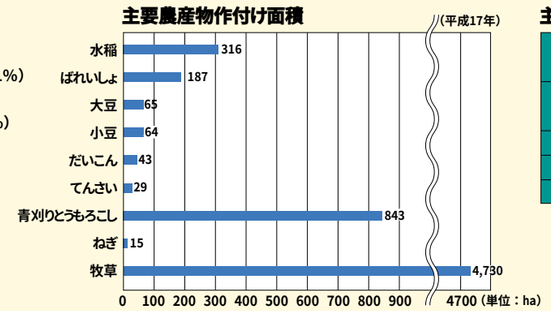
4 林業
八雲町の森林面積は、8万1653haで、町の面積のおよそ半分を占めます。八雲の林業は、森林組合を中心に生産とともに森林のもつ公益的機能をまもる取り組みも行われています。

■農業統計

農家戸数（平成17年度・戸）



主要農産物作付け面積



主要家畜飼養状況（平成17年）

牛	乳用	10,300
	肉用	1,280
馬	農用馬	26
	軽種馬	2
豚		25,949
にわとり		2,992
めんよう		12

単位：頭

C-II 漁業
栽培漁業で日本の先端をいく

1 漁業

八雲地域では、天然の養魚池と言われる噴火湾の水産資源の豊かさを背景に、ホタテを中心とした栽培漁業のほか、名種漁船漁業が行われています。日本海側の熊石地域ではイカなどの漁船漁業のほか栽培漁業も盛んで、アワビ養殖で知られています。

八雲町水産物産地供給センター
ホタテやホッキ貝を衛生的で鮮度の高い状態で出荷するための施設で、水産加工のための研修施設としても活用されています。

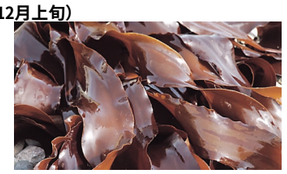
スケトウダラ梱包作業

サケ
水揚量1,107t／水揚高2億6,604万円
漁期（9月中旬～12月上旬）

カレイ
水揚量469t／水揚高1億8,791万円
盛漁期（10月～11月旬）

ハタハタ
水揚量29t／水揚高2,004万円
盛漁期（12月）

ホッキ貝
水揚量227t／水揚高1億1,196万円
漁期（11月上旬～3月下旬）



コンブ
水揚量49t／水揚高4,621万円
漁期（7月中旬～9月下旬）

スケトウダラ
水揚量3,227t／水揚高4億4,197万円
漁期（11月～1月）

ボタンエビ
水揚量11t／水揚高1億4,179万円
漁期(3月上旬～4月上旬、9月上旬～11月上旬)

2 栽培漁業

全国的に採る漁業から育てる漁業への転換が求められる中で、八雲町では内浦湾のホタテ養殖、日本海のアワビ養殖と、全国に誇る養殖漁業を行っています。

北海道栽培漁業振興公社熊石事業所 アワビ栽培センター

熊石水産種苗センター

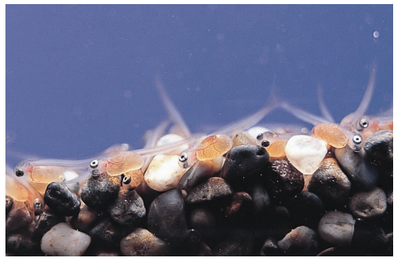
ホタテ水揚げ

ホタテ養殖（耳吊り）

ホタテ（12月～3月下旬）
八雲地域の養殖は、昭和40年代から始まり、垂下式という独自の養殖技法を確立し、現在、八雲町の漁業生産70億の8割がホタテ養殖が占める、日本を代表する産地となっています。

アワビ
熊石地域には北海道栽培漁業振興公社熊石事業所と、町水産種苗センターの2つのアワビの種苗生産・育成施設があり、温泉熱と海洋深層水の利用をはかりながら、採卵から成貝までの一貫体制が確立しています。

サケマスふ化事業
八雲の栽培漁業の歴史は古く、明治13年に徳川開墾農場が行ったサケ養殖事業にまでさかのぼります。現在では、「ユーラップの鼻曲がりサケ」としてブランド化がすすみ、サケマス事業ユーラップ事業所で、遊楽部川のサケ増殖事業に取り組んでいます。



サケの稚魚

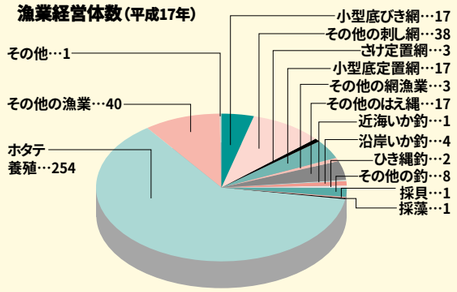
3 水産加工

八雲は水産加工業の盛んなまちとして知られています。主力であるホタテをはじめ、スケトウダラ、サケなどの加工生産も増加しています。なかでも粒の大きいイクラはブランド的存在となっています。

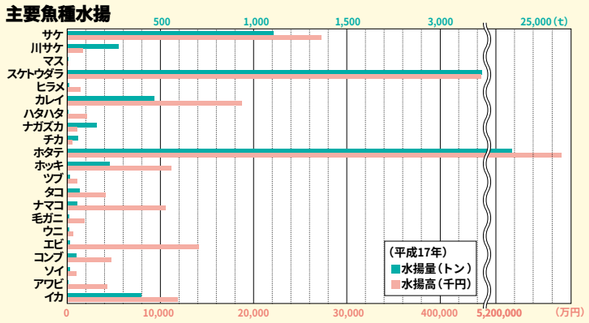
水産加工品

■漁業統計

漁業経営体数（平成17年）



主要魚種水揚



C-III 商工業
道南地域北部の商業の中心地

1 商業

八雲町は、道南地域北部の商業の中心です。中でも八雲地域では、国道5号沿いに大型店が立地し、街路整備事業を終えた本町商店街とともに、多くの買い物客を集めています。熊石地域の商業は小規模事業所が多いものの、特産のアワビをテーマにしたイベント開催やときめきスタンプ事業などの取り組みが行われています。

国道5号バイパス

中心商店街

八雲の中心商店街は、八雲駅を中心に函館本線と並行して広がる本町通で、平成5年から始まった街路整備事業によって大きく生まれ変わりました。歩道は従来の2倍の広さとなり、融雪溝も整備されました。あわせて沿道の店舗の改築も進み中心商店街らしい装いとなっています。

八雲商店街

遊楽部カード

熊石商店街

ときめきスタンプ

はぴあ産直市

はぴあ八雲

八雲町商業活性化施設「はぴあ八雲」は八雲地域中心商店街の核施設で、商工会が事務所を構えるほか、商店街利用者の憩いの場所として、また地域のコンベンションセンターとして、広く利用されています。

2 工業

八雲地域の工業生産高は約200億円と函館圏に次ぐ商工業の集積地となっています。主力となっているのが食品加工業で、長谷川水産、服部醸造など、この分野では北海道を代表する企業が操業しています。また誘致企業には、日本ハム系列の日本フードパッカー、IT産業のルネサス北日本セミコンダクタ、ヤマハ系列の造船業のヤマキ船舶化工などがあります。

食品加工品

ヤマキ船舶化工

ヤマハ発動機のグループ会社で、ヤマハブランド船舶を製造し、北海道・東北に供給しています。

服部醸造

マルハチ味噌で知られている服部醸造は、昭和2年に八雲町で創業。道産大豆と道産米を原料とした味噌、醤油、めんつゆなどを製造し、味の良さで全国にファンをもちます。

日本フードパッカー

国内食肉業界最大手の日本ハムの関連会社で、国内5か所にある工場のうち、肉の処理・加工を行う道南工場が八雲町にあります。

ルネサス北日本セミコンダクタ

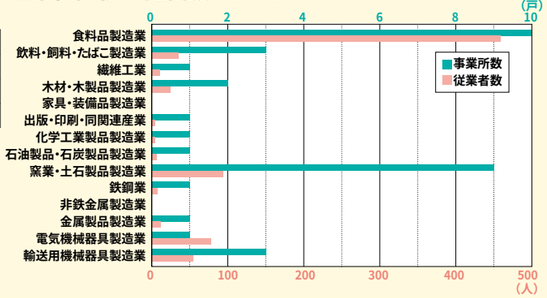
日立製作所と三菱電機の半導体部門の事業統合によって誕生した「株式会社ルネサステクノロジ」の関連会社。半導体集積回路の設計・製造を行っています。

■商工業統計

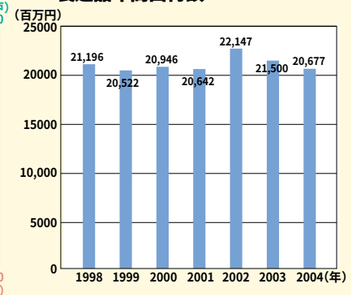
商店数・従業者数及び年間商品販売額

	商店数	従業員数	年間商品販売額
1999年	325戸	1,534人	3,884,054万円
2002年	318戸	1,518人	3,949,637万円
2004年	302戸	1,482人	3,674,444万円

工業事業所数・従業者数（平成16年）



製造品年間出荷額



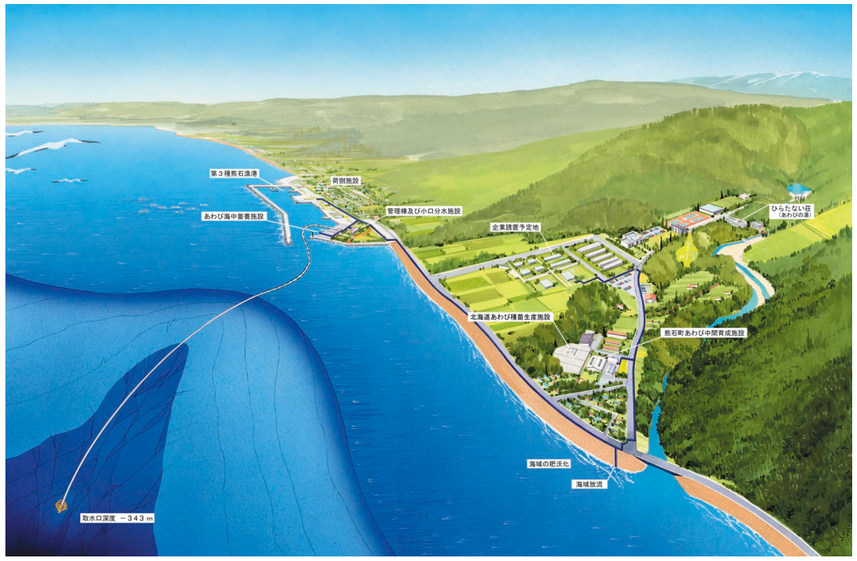
[C-IV] 海洋深層水

新たな水資源として注目の日本海固有水

1 海洋深層水

太陽の光が届かず、表層海水と混ざりあうことがない海水、それが海洋深層水です。一般に200m以降の海水を指し、無機栄養塩類が多く含まれ、清浄性が高く、低温で安定しているという水質特性を持っています。熊石地域の沖合は取水に適した海底地形であり、資源としての活用をすすめています。

海洋深層水総合交流施設



深層水の取水

海洋深層水総合交流施設

平成15年、北海道では初めて水深343mの取水ポイントから日量最大で3,500m³の海洋深層水を取水できる本格的供給施設として完成。館内には、海洋深層水についての展示コーナーも設置されています。

深層水分水スタンド

平釜製法による塩づくり

海洋深層水の利活用

海洋深層水は、アワビの養殖施設、熊石漁港の荷さばき所に供給されています。アワビ養殖施設では、アワビ中間育成の飼育水として活用され、荷さばき所では、陸揚げされた魚介類の洗浄水として鮮度維持に活用されています。このほかに多目的利用として、トマトなどのハウス栽培や食品加工用に利用されています。

■海洋深層水の主な水質成分

項目内容	単位	分析結果
水　温	℃	0.5～1.5
塩　分	psu	34.08
亜硝酸	μM	0.06
硝　酸	μM	22.7
りん酸	μM	1.75
珪　酸	μM	45.3
塩化物イオン	%	1.93
ナトリウム	%	1.09
マグネシウム	%	0.13
カルシウム	mg/l	378

項目内容	単位	分析結果
カリウム	mg/l	571
臭　素	mg/l	60
ストロンチウム	mg/l	7
バナジウム	mg/l	0.1以下
ふっ素	mg/l	1
バリウム	mg/l	0.0072
硫酸イオン	mg/l	2710
一般細菌	個/ml	30
大腸菌群		陰性

海洋深層水を活用した製品

八雲の暮らし D

D-I 生活環境
1 交通
2 住環境
3 環境・リサイクル
4 情報通信
5 安全

D-II 医療・福祉
1 医療機関
2 保健・障がい者福祉
3 老人福祉

D-III 子育て・教育
1 義務教育
2 高等教育
3 子育て支援

D-IV 移住・定住
移住者の声
八雲町の定住促進政策

D-V 行政・議会
1 行政
2 住民参加

D-I 生活環境

中核都市にふさわしい環境づくり

1 交通

八雲町は、青函圏と道央圏をつなぐ交通の要衝です。平成18年、北海道縦貫自動車道の八雲インターが開通し、道央圏との距離を縮めました。今後は北海道縦貫自動車道と連動した道路網の整備。中でも八雲地域と熊石地域を結ぶ国道277号の整備が求められています。

北海道自動車道縦貫自動車道(道央道)の開通式

北海道新幹線

平成14年、新八雲駅を含む新青森～札幌間の工事実施計画認可申請が、国道交通省に提出されました。このうち新青森～新函館間は、平成27年度末の完成を目指してすでに着工されています。残る新函館～札幌までの認可、着工に向けて、町民の期待が高まり、開業に向けた取り組みが進められています。

国道277号

2 住環境

町営住宅として、八雲地域、熊石地域あわせて22の団地があります。中でも新栄町団地や落部団地では、高齢単身者に優しいバリアフリー化がすすんでいます。

落部団地

雲石団地

3 環境・リサイクル

資源循環型社会を目指し、八雲町では八雲町リサイクルセンターを設置し、ゴミの資源化、減量化に取り組んでいます。下水道は普及率70%を超え、未整備区域の整備がすすめられています。

最終処分場

リサイクルセンター

熊石浄化センター

八雲町下水道浄化センター

4 情報通信

情報化社会の現在、インターネットや携帯電話などが必須になってきました。情報通信の環境整備は重要課題となっています。八雲町では町内何処でも高速通信回線が使える通信網の整備を働きかけています。

IT町民サポートセンター

町民のIT(情報通信・パソコン技術)向上のため、パソコントラブル対応にボランティアスタッフ2名が無料でサポートしています。

5 安全

八雲町地域防災計画の見直しの中で、時代に対応した防災体制が整備されています。交通安全では、熊石地域で「交通事故死ゼロ3,500日」を達成するなど、また、防犯ではいくつかのボランティアパトロール隊が組織され、住民と連携した啓発活動も盛んです。

熊石地域をカバーする防災行政無線

高速道路防災訓練

防犯パトロール隊(浜茄子隊)

交通安全街頭啓発

D-II 医療・福祉
道南地方の医療の中核として

1 医療機関

八雲地域には、ベット数358床をもつ「八雲総合病院」と「国立病院機構八雲病院」の二つの公立病院に5つの民間病院があります。また熊石地域にはベット数99床の「熊石国保病院」があり、地域医療の担い手となっています。

MRI室

八雲総合病院

ナースステーション

八雲総合病院
16の診療科目をもつ総合病院で、町村立の病院としては北海道一の規模を誇ります。北渡島桧山の地域センター病院に指定されています。

国立病院機構八雲病院
小児期発症の神経筋疾患専門病院で、町営の患者と家族のための「いこいの家」や、病気療養をしながら学校教育を受けられる「八雲養護学校」が隣接しています。

熊石国保病院
内科、外科、整形外科、小児科、婦人科、眼科の診療科目があります。

2 保健・障がい者福祉

病気の早期発見のため、各種健診や訪問指導、健康相談が八雲町総合保健福祉施設シルバープラザを拠点に行われています。また障がい者福祉では、「八雲町地域福祉推進プラン」に沿って、社会福祉協議会などが連携をとりながら、ボランティア活動の活性化など、地域福祉を支えるネットワークづくりをすすめています。

町民ドック

シルバープラザ　デイサービスセンター

シルバープラザ
八雲町総合保健福祉施設「シルバープラザ」は、デイサービスセンター、生きがいセンター、保健センターの機能を併せ持った福祉健康の総合施設です。隣接する老人保健施設とともに「八雲町福祉村」をつくっています。

シルバープラザ

3 老人福祉

「八雲町高齢者保健福祉計画」を策定し、高齢者の暮らしを地域で支えることを理念とした事業を行っています。さらに自宅での生活が困難になった高齢者に対して、特別養護老人ホーム「厚生園」「くまいし荘」、介護老人保健施設「コミュニティーホーム八雲」などが整備されています。

厚生園

くまいし荘

コミュニティホーム八雲
介護老人保健施設「コミュニティホーム八雲」は、入院するまでではないが介護は必要という高齢者に対して、ショートステイやデイ・ケアのサービスを提供する施設です。医師、看護師、理学療法士、作業療法士などの専門スタッフによるきめ細かなサービスが受けられます。

コミュニティホーム八雲

D-Ⅲ 子育て・教育
地域で育てる子どもの未来

1 義務教育
八雲町には小学校15校、中学校5校があり、12の学校で複式教育が行われています。これらの学校では小規模校のメリットを生かし、地域に根ざした教育に取り組んでいます。

雲石小学校「海洋深層水学習」

八雲小学校

相沼小学校「田植え学習」

山越小学校「羊の学習」

黒岩小学校「地引き網学習」

落部中学校「厚生園への慰問」

熊石第二中学校「相沼奴」

2 高等教育
八雲町には「北海道八雲高等学校」と「北海道熊石高等学校」の二つの高校があります。また、「国立病院機構八雲病院」に隣接する「北海道八雲養護学校」があります。

北海道八雲高等学校
大正12年に開学した旧制中学以来の歴史をもつ伝統校で、普通科と総合ビジネス科の2学科をもち、文部科学省の「学力向上フロンティアハイスクール事業」指定校になっています。

八養祭

北海道八雲養護学校
小学部、中学部、高等部をもつ八雲養護学校では、毎年、地域との交流をもつため、八養祭を開催しています。

北海道熊石高等学校
昭和24年に開校した普通科の学校で、「北を活かす人づくり」推進事業の実践研究校に指定され、「起業家教育」など個性的な教育が行われています。

3 子育て支援
「次世代育成支援行動計画」を策定し、「交流・応援・育ち愛・子育てのまち八雲」を基本理念とし、子育て支援センター、学童保育など、子供と親が安心して生活できる支援体制がすすめられています。

学童保育所

町立くるみ保育園

保育施設
2つの私立幼稚園のほかに、6つの認可保育所があり、ほかに3つの季節保育、1つのへき地保育所があります。

八雲町子育て支援センター
スマイル（相生児童館内）と、ひまわり（シルバープラザ内）の2つの子育て支援センターがあります。子育てサークル支援、育児教室や療育など子育てに関する相談・情報提供が行われています。

D-IV 移住・定住
北海道らしさを満喫できる八雲ファンが広がっている

ファームインを実現するために日々奮闘中

藤内光好さん（48歳）
兵庫県出身（八雲歴5年）

私の八雲町への移住の最も大きなきっかけになったのは阪神淡路大震災でした。あの被災を機に、若い頃旅をした北海道への移住を真剣に考えはじめたのです。

北海道の田舎で農業に従事しながら、民宿を営むファームインを開業することが夢になりました。そこでまず札幌に移住して、移住者たちの交流団体「開拓使の会」で情報収集を行っているときに、偶然八雲町に知り合いがいる人と出会いました。それと同時に、「ハーベスター八雲（当時ケンタッキーファーム）」を紹介しているテレビ番組を見て、八雲町に魅力を感じるようになったんです。

現在は総合病院の調理師として働いています。移住当初は町内のアパート暮らしでしたが、その時から常にファームインを開業するための一軒家を探し回っていました。条件は、周囲に牧草地が広がる眺めの良い丘の上の一軒家。誰もがうらやむような条件でしたが、人を介して偶然見つけた物件が今の家です。この家はもともと農家で、目の前に農地も広がる絶好のロケーションです。

冬の除雪や買い物などは不便ですが、それは最初から分かっていたこと。たいした苦にはなりませんし、今の環境は大満足ですね。家は、お客さんが泊まれるように改装中です。小学生と高校生の子供たちに手がかからなくなる頃には、ぜひとも念願のファームインをオープンさせたいと考えています。

八雲町の定住促進政策

団塊の世代が定年退職期を迎えようとする中で、第2の人生を広大な北海道で過ごそうと考える人たちが増えてきています。八雲町では、八雲町に移住し、新しいライフスタイルを築いていただこうと、移住・定住をサポートする各種の施策を行っています。

短期生活体験
まちの様子や自然を体験するために1～3ヵ月程度、お試しで住んでいただくものです。民間のアパートの1室を敷金・礼金なし、家賃、光熱費、レンタル家具代をセットにして格安に提供します。

移住体験ツアー
家庭菜園付き住宅や安心ハウスを見て、八雲町への理解を深めていただくもので、移住施策、北海道の住宅環境をテーマとしたセミナーも開催します。

小規模農業志向者受け入れ
移住後に農業を行ってみたいという方のために、受け皿を用意する事業です。

空き家情報の提供
町内の空き家や空き地を有効活用するためホームページを通じて、賃貸・売買の物件情報を提供します。

この他、次のサポートプログラムを準備中です。

■家庭菜園付き住宅構想
移住後の住まいとして、家庭菜園付きのゆとりある住宅を建設するものです。民間が適地を検討中です。

■安心ハウス認定
食事や介護の一部を受けることができる高齢者向けの賃貸住宅で、民間が建設を検討中です。

●問い合わせ先
八雲町役場　企画振興課企画係
TEL.0137-62-2111　FAX.0137-62-2120

この町に狙いを定めていた海の達人

佐々木慎一さん（61歳）
旭川市出身（八雲歴5年）

生まれは海のない旭川。小学校五年生の時に臨海学校で増毛の海を初めて見て以来、海のとりこになり、釣り、水上スキー、ダイビング、あらゆる海のレジャーを楽しんできました。釣りにも最適な豊かで美しい日本海が目の前に広がる熊石の虜になり、休日には何度も遊びに来ましたよ。そのうちに、いつかここに住もうと狙いを定めました。

30年間努めた会社を57歳で早期退職したのが5年前。退職金を利用して購入したのがこの家です。購入後半年間は、自らの手で建材を購入しリフォームをしました。その後、ビニールハウスの点検保守をする会社の駐在員としての仕事が見つかり、自宅は事務所としても利用しています。

実は家の裏にも小屋があり、これをロッジ風に改装して宴会スペースも作りました。ここは地元の同じ趣味を持つ人たちとの交流に役立っていますね。

3年前から、海洋クラブの指導員をしています。子供たちに八雲の海の素晴らしさを伝えるために、シュノーケリングやクルージングなどの活動を行っています。

今後もこのような素晴らしいフィールドをもっと観光に活用できるよう、地道に海洋クラブの活動を続け、この海の広報活動をしていきたいですね。

酪農発祥地で拓いたチーズ職人への道

高橋静さん（55歳）
岩手県出身（八雲歴31年）

37年前、岩手の高校生だった私は一冊の本と出会いました。本の名は「私の見たデンマーク」。八雲で酪農を営む著者が体験した北欧の酪農の実態と共に、北海道の酪農経営の改善を願う著者の思いが記された内容でした。この本で酪農に興味を抱いた私は高校卒業後、実習生として八雲の牧場で4年間汗を流し、さらにノルウェーで3年間ホームステイをしながら本場の酪農を学ぶことになったのです。

その後、牧場勤務や酪農ヘルパーの仕事をしながら、いつかこの八雲町で独立したいと考えるようになりました。しかし資金的にも酪農で独立は難しい。そこで思い浮かんだのが、ノルウェーの食生活での出来事。それは、チーズアレルギーだった私が、ホームステイ先の食卓に毎食出てくるチーズの味に感動して、チーズが食べられるようになった経験でした。この経験から、八雲町の牛乳を使ったチーズ作りでの独立を思いついたのです。

1996年、八雲町の当時の独立支援制度や、以前勤めた牧場の人たちに様々な面で協力してもらい「八雲チーズ工房」を開店。今となってはこの工房も道内外から注文を頂きますが、開店当初の厳しい営業活動のなかで、地元八雲町の人たちに、この味を最初に受け入れてもらえたのが一番うれしかったですね。

八雲町の人たちのあたたかさは、これから移住を考えている人たちにも、心の支えになってくれるのではないでしょうか。

[D-V] 行政・協働
町民とともに考え、ともに汗し、ともに築く

1 行政
平成17年10月、旧八雲町と熊石町が新設合併し、新八雲町が誕生しました。役場庁舎は旧八雲町役場庁舎に置かれ、旧熊石町役場は熊石総合支所となり、住民生活に関わる部局が設置されています。

熊石総合支所

八雲町役場

2 住民参加
八雲町では、各種審議会委員の選定では公募制が広く行われ、ワークショップの設置やパブリックコメント制度の確立などによって、広く町民が町政に参加できるしくみづくりがすすんでいます。また、『5人以上で町長との懇談会』を「いつでも・どこでも」の形で開催しています。

住民活動
イベント、環境美化、福祉や教育など、さまざまな分野で住民活動が盛んにおこなわれています。八雲町では情報の公開と共有をすすめ、自立と協働のまちづくりのために住民活動を推進していく「まちづくりサポート機能」の強化をすすめています。

クリーンくまいし推進運動

道路清掃活動

フラワーロード

総合計画策定全体会議

住民ワークショップ
町民と職員が対等な立場で語り合い、より良いまちの将来像の実現に向け、市町村合併後の新しい総合計画の策定をはじめ、様々な場面で住民ワークショップによる住民参画が進められています。また、行政活動への町民の参画を促し、協働のまちづくりを推進するため、積極的な情報の提供に努めています。

八雲町民憲章

平成18年9月1日制定

私たちは、太平洋と日本海を持つ町を誇りとし、より豊かな未来をつくるために、この憲章を定めます。

自然を愛し美しい町をつくろう
特色ある自然を尊び、
協働による地域づくりを進めるもの

助け合うあたたかい町にしよう
助け合いの精神を広げ、
温もりのある地域社会の形成を進めるもの

活気あふれる町にしよう
産業の活性化を図り、
道南北部における中核性の強化を進めるもの

つねに進歩する町民になろう
チャレンジ精神を喚起し、
新しいまちづくりとしての取り組みを進めるもの